

第9期第2回神戸市立図書館協議会議事要旨

日 時：2025 年 8 月 29 日（金） 14 時～15 時 50 分

場 所：神戸市立中央図書館 2 号館 4 階 研究室(1)(2)

出席者：(委 員)原田会長、齋藤副会長、安若委員、合田委員、尾野委員、
小野委員、常泰委員、福田委員
(事務局)中央図書館長、総務課長、総務課担当課長、利用サービス課長、
総務課担当係長 5 名、利用サービス課担当係長 3 名、総務課担当 1 名、
利用サービス課担当 1 名

傍聴者： 4 名

議事次第

1 開会

第9期第2回にあたって

2 報告

- (1) 令和6年度市民満足度調査結果について
- (2) 新館の整備状況（垂水）
- (3) 神戸「本」の文化振興について

3 協議

- (1) 令和6年度神戸市立図書館事業評価（案）について

4 閉会

議事要旨

2 報告

事務局より報告。

報告事項(1)「令和6年度市民満足度調査結果について」(資料3)

- ・調査結果について報告。

報告事項(2)「新館の整備状況（垂水）」(資料4)

- ・令和7年9月30日開館予定の垂水図書館について説明。

報告事項(3)「神戸「本」の文化振興について」(資料5)

- ・神戸「本」の文化振興プロジェクト 令和7年度の取り組みについて説明。

【報告事項に関する質疑応答】

- (会長) ありがとうございました。ただいま事務局から3つの項目について説明してもらった。委員の皆さんご質問、ご意見等あればお願いします。
- (委員) 六甲アイランドのブックフェアについて、土曜日だけの開催が残念だ。2日や3日間の開催を検討してもらえないか。
- (事務局) こちらは様々な観点から開催日や曜日を検討している。第1回の開催後のアンケートでは、同じ3月あたりの土曜日が良いという意見が多かった。今後の検討課題とする。
- (会長) 書店との連携はあまり多くない取り組みなので、ぜひ続け欲しい。4,500人と入場者数も多く、うまく行っている形のまま広げていってほしい。満足度調査のアンケートに関しては非常に高い結果で良いことではあるが、この手の結果で悪いのは見たことが無い。来館された方の結果が悪ければ、それは大変だ。5,000件以上と回収率が非常に高く、返答する気になってもらえたという意味で、評価内容そのものより面白い結果であると思う。ぜひ色々な意見を集めていただきたい。展示に関しては、世界的に注目が集まっている傾向がある。アメリカのオハイオ州やワシントン州などでは、公共図書館で従来、コンピューターが置かれていた場所が集会場になり、その集会所が展示場になる事例が増えている。展示に力を入れ、様々なイベントを行い、利用者に対して興味を持ってもらう方向を強くしていくことなどが行われている。東京23区内の図書館でも、図書館評価の一基準として貸出冊数を止め、その代わりに展示によって、どれだけ展示の時に紹介した本が借りられたかというのを指標に入れている。放置していても増減する指標ではなく、図書館員が様々な工夫をしたことによって、どう変わったかという事について評価するという議論が出てきている。今回のアンケートで展示についての要望があったということなので、ぜひそれも含めて検討してもらえたら良いと思う。新しい図書館について、おもしろそうなのでぜひ利用したいと思う。読書室やリーディングルームについて、神戸市立図書館では予約の仕組みが導入されており、うまくいっているの期待しつつ、利用者が偏らないように目配りしてもらえるとよいと思う。色々と一つ決めたら終わりではなく、いつでも変えることができると思うので、工夫してもらえとよいと思う。他にご質問ご意見があればお願いしたい。特になければ協議事項に移らせていただく。

3 協議

事務局より説明。

協議事項(1)「令和6年度神戸市立図書館事業評価(案)について」(資料6)

- ・事前に図書館案を委員に送付し、回答をいただいた。評価と付随するご意見を【図書館協議会の評価・意見】として各項目に記載した資料をもとに説明。

【協議事項に関する質疑応答】

- (会長) それでは順に挙がっている各項目について、協議会としての評価を考えていきたい。必ずしも自身の意見にこだわる必要はなく、他の方の意見を読んでまた新たなお話など自由に発言をお願いする。
- 資料の充実より電子書籍については利用がそれほど伸びていないという話、コンテンツ数 5,000 点とある程度数があるように思うが、読むとなると数が足りない。実際に利用が少ないという点だが、一度読んだものを再度読むことはあまりないので、新しい物が無ければ増えないという意見もある。郷土資料については集めるという点は評価されつつ、利用状況や役に立つのか、神戸市立図書館にとってどのような価値があるのかという意見がある。郷土資料の収集に関して、どれくらい利用されているのかという質問があるが、回答や目安などお願いしたい。
- (事務局) 郷土資料の収集については、館内での閲覧利用を中心に行っており、後世に向けての保存を考え合せて収集している。開架の閲覧利用については数値を出していない。貸出利用が多く見込まれるものは複本を購入して利用に供している。
- (会長) 館内利用はある程度あるというのは確かで、京都府立図書館の調査によると、館内利用と館内貸出の冊数はほぼ同じぐらいある。月間に 3,000 冊から 4,000 冊くらいの貸し出しがある期間中に、館内利用も同じ程度の数が机の上に置いてあったという調査もある。また、直接棚に戻す人の存在を考えれば、おそらく閲覧の方が貸出より多いだろうと予想される。その意味で、あること自体の価値の方が高いというのはその通りだと思うので、郷土資料をきちんと集めていただくことは非常に重要だ。その際、どの程度集めようとしているか、また市民の方々に説明するための工夫がされているかという点が気になる。郷土資料をどこまで、どういう基準で集めているのか。
- (事務局) 神戸に関する事柄や人物を取り扱った資料や神戸を舞台にした文芸作品等、神戸出身またはゆかりの著者の著作など。流通しているものは必ず収集するようにしている。自費出版等についても、新聞等から情報を得ると、すぐに連絡を取る。
- (会長) どのくらい広げているのか。
- (委員) 市立の図書館と府立や県立の図書館では利用層が違う。調査のために郷土資料を利用される来館者が多いところは、当然利用者数が増える。しかし、神戸市の郷土資料のようなところでは、一般の利用者はあまり立ち寄らないのが普通だ。今回、戦争関連の生の資料の展示があったのは良かったと思う。遺書めいたものや戦時中に家族に送られた手紙など、本当に生のものが見られたので感動した。誰かが足を止めれば他の方も足を止めるようで、皆さんが興味を持っているのだなと思った。あの展示は非常に意味のあることで、個人の暮らしの

中で埋もれていたものを図書館が保存することによって歴史の証言になっていると思った。その時に貸し出しできる資料は少ないと思うが、展示してもらい、閲覧用の資料もあることを案内することで、資料がもう少し利用されるのではないかと思った。傍らには児童書の戦争関連の展示があった。子供は夏休みでないと手の届きにくい資料には手を伸ばさないと思うので、展示とのコラボがうまくいったと思う。大人にも読んでもらいたい本がたくさんあるので、配置を変えたりデータも触らなければいけないが、関連本を展示することで読んでもらえたらいいなと思う。

(事務局) 展示は行財政局によるもので、神戸市の場合、戦災資料は行財政局が収集している。年に1度、図書館の場所をお貸しする形で展示しているが、図書館の蔵書についても、時期を合わせての展示を今後考えていきたい。

(事務局) 自殺予防や歯の週間について展示しているが、その時は関連本を置いている。戦争関連についても関連する本を置くなどしていきたい。郷土資料は2階にあり、席で皆座っているのを見ているので、見に来られる方が多いと感じている。特に高齢の方が調べている。郷土資料は非常に大事だと思う。神戸の本棚というパンフレットを作成し、郷土資料の案内をしているので、もっと皆さんに使ってもらえればと思う。神戸の事に関しては、中央図書館に行けばあるというのを目指している。

(会長) 震災もそうだが神戸にあると予想されている本というのがあり、戦災資料は神戸以外の所も持っており、中央図書館の郷土資料とそれ以外のものをあわせた展示資料となると、資料範囲は広がると予想されるので、何をどう集めてくるのか、集めてきたものと持っているものをどう組み合わせて使っていくのかというのは非常に面白い考え方だと思う。今の委員の意見は非常にありがたい。他にご意見いかがか。

(委員) 私は神戸に大人になってから来ているので、小学生が学ぶべき郷土資料を知らない。図書館に行ったら沢山展示があることを知ったのは、図書館協議会委員になってからで、展示とレクチャーのような簡単なプログラムがあれば、神戸以外の出身者も地元を知るきっかけになると思う。

(事務局) 読書週間のイベントで、神戸の歴史を話すようなことも考えている。神戸のサブカルチャー的なもの、例えば「神戸のここには昔の電柱が残っている」等、とっつきやすい内容を上手に紹介していきたいと思う。またそれを聞いて郷土資料を見てもらいたいと思っている。神戸出身でない人にも神戸を好きになってもらいたい。

(委員) そのレクチャーの中に同人誌のコーナーを設け、神戸の市民が集いを持ち、形として同人誌を残した、そういうグループがあると紹介してもらえたらと思う。若い人から定年退職している方々も図書館で学びと喜びを得ていると思うので、持っている資料を上手く使ってもらえたらうれしい。

- (会長) 郷土資料は閲覧室にある書籍や貴重書だけでなく、神戸文学館などが何を所蔵しているかという本に関するデータも大きな意味がある。色々なものを紹介する際に、文学館が持っているものを知らせるだけでも厚みが出てくると思う。範囲を狭めず、さまざまなものをデータ化して集めていくことが重要だ。
- (委員) 学校側としては、郷土資料を集めていただいていることに感謝している。図書館グループでも資料をデータベース化し、授業で使えるものを作ろうとしている。郷土の祭りという4年生の教材に焦点をあて、灘のケンカ祭りと神戸まつりの資料を集めており、神戸まつりがコロナ下をどうやって乗り切ったのか等の資料を集めてもらえると教員も非常に助かる。
- (事務局) 学校連携としてお手伝いするので、気軽にご連絡ください。
- (会長) 調べていただくことは重要ですし、やってきてすぐに探せるように色々なものを作っていただきたい。電子図書についてもここでは上がっているが、電子書籍の購入費用をどこから出すのか、電子書籍を購入すると紙の資料を減らすという事になってくる。電子書籍と紙の本の両方を揃える際の予算の捻出の難しさがある。また、利用される際に、どの程度の冊数を収集すれば電子書籍の利用が進むのかが不明であるという問題があると思う。方針として中途半端に見えるが、5年度末4,972点で6年度末5,028点の電子書籍と実質的に塩付けに近い状況に見える。図書館の方針はどうなっているのか、紙の本に予算を集中させるのか、電子書籍は利用が進んでからなのか、どのように考えているのかを教えて欲しい。
- (事務局) 電子書籍は点数では4,972点から5,028点だが、契約期間があり、購入した本の中には2年で更新されるものもあるため、内容的に新しくはなっていく。夏休み前に小・中学生向けにギガ端末を使って電子書籍を閲覧できるようにしたため、小・中学生の利用者数は増加すると思う。小・中学生が自宅のPCで図書館の電子書籍を利用することで、図書館に来るきっかけになればよいと思う。小・中学生の利用者数やニーズを見ながら、小・中学生のための電子書籍を購入したり、読み放題パックを増やしていくなど工夫をしていきたい。
- (会長) 電子書籍のパックは買い取り方式や年間何回とか合計何回とかになっているので、切り替えは可能だが追加はなかなか難しい側面がある。読み放題の朝読パックや調べ学習パックを導入していくことにより、朝読対策や調べ学習などごく一部のジャンルを購入するのか、大学生を対象に専門書を購入するのか、一般の方を対象に旅行記などを購入するのかなど、今はどのようなジャンルを強化するのか試している段階なのか、こういう方向でやっているが予算的又は契約上難しいからなのか、図書館としての方針があれば教えて欲しい。説明を聞くと試している段階に近いのかなと思うが、いつまでこのような状態か。
- (事務局) 今年度GIGA端末での利用を開始し、昨年度2パックだった読み放題パックを7パックに増やした。青い鳥文庫、お仕事や動物、食べ物の読み物、ライトノ

ベルパック、未来文庫ノベライズパック、日本の歴史・世界の歴史のまんがの学習シリーズ、自然科学パックなどである。利用状況については統計をもとに、今後の参考にする。

(会長) 青い鳥パックは一部の図書館では利用が多いという結果もでているので、面白い結果がでるとよいと思う。

(事務局) 電子書籍の図鑑などは人気があるが、一方小説を電車で読みたい人もいる。統計を分析したい。

(会長) どういう人がいつ頃使っているのか、朝読書の時の利用があるのか、又イベントとの関わりがどうあるのか、図鑑に関しては水族園とか昆虫展示とかを行った時などにその分野の本が借りられるというのはよく聞くので、そういう事についても調べていくとなると、分析は通り一遍の分析ではなく、今後につながるような細かな分析をして、次の企画に生かしていただきたい。

(委員) 電子書籍をみてみたが、特定のカテゴリーにおいてコンテンツ数が少なく、全体でも少なく感じた。これだと自分の読みたい本やジャンルを探すまでいかない。トップページ掲載のコンテンツをまめに更新し、魅力を保つようにと書かれているが、新刊本が掲載されており、そこに予約が殺到している印象を持った。自分の読みたい本を探すというより、ざっと見て何か面白い本があるのかなとみているように感じた。

(委員) 5,000 点のうまい使い方を工夫していく必要がある。

(委員) GIGA 端末の導入を夏休み前にしていただき、ありがたく思った。教員も利用してみたところ、借りたいと思った書籍が借りられなかったのもっと借りられたらいいなという意見があった。学校としては社会科の本とか統計関係を公費で購入すると 1 冊 3~4 千円と高いが、5 年も経過すると価値がなくなるので、思い切って購入できない。よって、そういった本を 2 年更新の電子書籍で図書館にあれば、使いやすいと思う。学びとリンクしたようなところで考えていただけるとありがたい。

(会長) 電子書籍についてはまだ途中であるという状況と、郷土資料についてはある程度頑張っているところに加えて、さらに追加で色々検討いただきたいという点で、図書館の自己評価も B ですし、全体として協議会の評価も B 評価とさせていただく。

(会長) 2 つ目の読書推進の項目について、外部や書店との連携や講演会などが沢山行われているため、高い評価が得られているのかなと思う。これだけ沢山行われていると、広報が重要で、それがきちんとなされているかを考えたいという意見が沢山出ていたように思う。こちらについてもご意見を願います。

(委員) 図書館と書店は役割が違うので、従来お互いに距離感があったと思うが、利用者の視点からすると、図書館も書店も本に触れる場所であるので、制約がある中、今取り組んでおられる書店との取り組みは非常に画期的な事と感じる。書

店、図書館や行政サイド、利用者がタイムリーに利用できるシステムはすんなりと行かないと思うが、県外では図書館で本を売っているケースも見受けられるので、図書館で借りて気に入ったので購入したいという方もいるだろうし、そういうことも視野に入れて取り組んで欲しい。

(会長) 書店との連携については画期的なことと思うし、図書館で、苦勞している点や温度差のある状況が感じられるのか、もし感じるとしたら、どのような対応を取っているのか、補足をいただきたい。実際来られた感じとしてどんな感じか。皆来る人は前向きな雰囲気だったか。

(事務局) 文化振興のプロジェクトについては、行政が知らないことについて、アドバイザーに助言をいただいたり、実際に間に入って交渉等をしてもらっているので、あまり温度差や障害に感じることは少なく、非常にありがたいと思っている。やはり書店サイドは商売になるので、商習慣に戸惑いを覚えることは多々ある。

(会長) 文化振興プロジェクトを見ていても、前向きで、新しいことをやろうという方がたくさんおられるので、楽しい会だろうなと思う。ぜひこういう取り組みは進めて欲しい。行った方や実際に行ってなくても資料を見て、何かご意見があればいただきたい。あまりないイベントがたくさんあるので、面白いなと思う。どれだけ継続していけるかだが、一度来た人がもう一回来るというのは充分考えられるが、どうやって広げていくのか、興味のない方に来てくださいとはなかなか言えないが、より興味を持ってもらえる方策を考えていただきたいと思う。今、図書館で考えているお話があれば願います。

(事務局) SNS を活用するというのは最たるもので、実際、本から離れてしまう年齢層があり、そういう方々にどう伝えていくかが課題と考えている。

(事務局) SNS は始めたばかりなのでフォロワーも少ないが、是非フォロワーになっていただきたい。最近の投稿の一例だが、神戸で本を読んでいる風景に短い文章を付けたり、一人の男性が小・中学生の頃に読んだ本や人生を変えた4冊紹介してくれている。普段本を読まない人が、本を読もうかなと思ってもらえるような情報をInstagramで発信している。展示やイベントで言えば、図書館に普段来ない人に来て貰えれば、いいなと考えている。例えば植物園に出向いてイベントをしたり、スポーツのイベントをしたり、図書館に来ている人に喜んでももらえるのはもちろん、普段図書館に来ない人に図書館に行ってみようと思えるような仕掛けを頑張っている。本屋講座もそうだが、去年は書店員の方にお話しをしてもらう行事を図書館で行ったが、すぐ満員となった。図書館には行かないけど、本屋で本を買う人も来ていた。なぜ図書館がやっているのかと思わせるようなイベントを引き続きやっていきたい。

(委員) 六甲アイランドのブックフェアが中央図書館のイベントになっているが、中央図書館はこのイベントで何をされたか。

- (事務局) 事務局です。民間の方と一緒に出店依頼や調整、会場の段取りを進め、イベントの告知をした。
- (事務局) 書店が無い地域が増えているが、その一つとして六甲アイランドがあり、書店が色んな人の交流の場になりうるという事で地域振興の考えもあり、書店、出版社、地域の団体の方、地域の大学の方にもお声がけしたという意図もあり、図書館の存在意義もあった。
- (委員) 資料を見ると、イベントの日にちが書いてあるが、曜日の記載がなく、曜日を調べたところ、日曜日の方が若干参加者が多く、土曜日の方が少ない傾向にあるようだ。土曜日は皆さんアクティブなことをされて、日曜日に静かな行動に入られるのではないかと分析した。日曜日にイベントをすると参加者が増えると思った。
- (会長) 開催日時についても候補を考えていただきたいと思う。
- (委員) 今後の図書館としては、リアルとバーチャル、両方求めていくことが必要になってくると思う。両方とも、図書に触れることで知識の向上や知的な学力の向上が求められ、神戸市民の力の向上に図書館が求められていくと思う。そのためには、バーチャルな方はデジタル図書館を充実させることが非常に重要で、障害を抱えている方々が自宅でも見ることができ、場所を問わないので、学校の学習とリンクして色々見ることができ、冊数に限りがなく、一斉に見ることができ、待つ時間がないので学習が上手く進められるので、今後バーチャルという点では今後力を入れて進めていく必要があると思う。一方で、リアルな図書館の役割として重要なところは、実際に図書館で手に触れて、前後関係なくすぐに調べられる、手に取りやすさ、又居場所づくりがあると思う。イベントも挙げられているが、幅広い図書館の利用の仕方を考えてもいいと思う。今日の資料に関しては、この図書館が歴史博物館のような位置取りも含めて、どこまで狙われているのかを考える必要があると思う。学習機会読書推進ですが、イベントのみではなく、日常の取り組みも併せて成果として出してもいいと思う。実際に対面でどれくらい学習機会を向上させるために借りられているのか、小中学生の探求学習との関連も考えられるし、デジタル図書を導入した場合に、学校教育との関係でどれくらい借りられているのか冊数も含め、総合して学習機会を提供しているという指標の取り方をしてもよいと考える。バーチャルな本では、音声付きの本も売り出されており、読み聞かせも親がしなくても音声ができることになるので、幅広く読書推進と学習機会の点を考えてもいいと思う。
- (会長) 今のお話の中で評価や場所の話は非常に重要ですし、学校とのつながりも含めて、いろいろとさらに追加して考えて欲しいと思う。実際、その発話について読み聞かせというのは、日本ではほとんどデイジーやオーディブルくらいしか出ていないが、海外の図書館では、カリフォルニアの図書館では3階建ての図

書館の1階がすべて、ディスアビリティの方に対する対策になっている。健常者の方も多く借りていかれる読み上げの本のエリアになっており、蔵書冊数の約20%弱がそういう本だという図書館も存在している。図書館は多様になっていくことは十分考えられ、先程の委員からお話のあった様々な指標を特に除外することなく考えることが非常に良いと思う。評価の方、さまざまなお話がある中でも、少なくとも広報その他でもう少し頑張っただけの側面はあるにしても、少なくとも神戸の図書館が新しいことをやっているところが、色々な人々に伝わっているという面、さまざまなイベントの参加者の方々も喜んでいるという面も含めて、A評価でいかがか。

(委員) 反対。やっぱり本当に知らない人多すぎて、せっかく図書館のトレードマークみたいなのが作られたというのを、前回の図書館協議会で知ったが、そのマークをこの半年で見たことが一度もない。あの図書館マークのアイコンを作ってもらい、それで調べたら図書館の次のイベントがざっと携帯で出てくるなどをしてほしい。どのプログラムも聞いたことがない。これで良しとすると努力目標がないのではないか。まだ努力が必要ならB評価が妥当ではないか。

(委員) その意見は来年度反映すれば良いのではないか。今年は頑張っているの。

(委員) 個人的にアンテナが低いかもしれないが、評価表を見て多くのイベントが行われていたことに驚いた。

(会長) 評価はABCをつけるにしても、付帯事項として一言コメントをつけるのは有効だと思う。齋藤委員が言ったように、来年度に向けての努力をお願いするという事で議事録にまとめ、A評価とする。

(委員) A評価に賛成だが、利用者が最も目を止めるのはホームページだと思う。図書館の開館情報だけを図書館カレンダーに載せるのはもったいない。イベントのある日にマークを付け、そこをクリックするとイベント情報が表示されるなどすると、沢山の人の目に留まると思う。イベントを企画するのに沢山のエネルギーが使われているので、人の目に止まらないのは残念だ。

(事務局) 広報の方法として行っているのが、まず1つに広報紙こうべ、こちらは全世帯に配布されているので、そちらできるだけ掲載をしてもらっている。ただ、全てを読む人は少ない。もう一つはおでかけ KOBE という神戸市のサイトがあるが、そちらのサイトを使ってイベントに来る人が増えている。ツイッター(X)でもまめにそれぞれの図書館が情報を発信しているので頑張っているが、委員の方々が見ていないとであれば、まだまだ足りないと思う。

(委員) チェックしているが、集約して見られる場所が必要で、だとしたら図書館のホームページだと思う。イベントがありますぐらいで良く、詳しくはこちらにと案内してもらえたら見やすくなると思う。評価はAで良いと思う。

(委員) この行事の数は莫大になった。広報は難しい、広報紙の欄を確保するのが精いっぱいだと思うので、広報するとなると多様なものを使わないといけないが、

年齢層によって使うグッズが異なるため、ホームページを見ていないか見ている人の数は減ってきている。

(会長) 協議会に参加していると、他の協議会でも同様の意見が出るが、ここでこんなに多くのイベントが行われていることを知ったという意見が多い。少なくとも頑張っているということで相対評価のAとする。

(会長) 3つめの項目の施設の整備とデータ化の推進について、様々な施設が整備されている。垂水図書館で工事が進んでおり、間もなく開館。三宮についても計画通り進んでいる。デジタル化は項目としては少しだが、利用者の待ち時間の減少という効果がでている。座席予約システムに関して等意見はあるか。

(委員) デジタル化について、フィンランドやスウェーデンでは教科書のデジタル化をやめる方向にある。紙の本の方が頭が良くなるというデータもあるらしい。以前はデジタルが便利だと思っていたが、子供にとってのデジタルは良いのか悪いのか揺らいでいる。

(会長) この話だが、論文をみるとデジタル化が減っている若しくは止めているではなく、分化しているという書き方になっている。全部についてデジタル化を行うのではなく、デジタル化をする対象を分けて、デジタル化をしない若しくはそれに触れない機会も作っているという表現になっている。 デジタル化の良い面と悪い面を考える必要があり、単純に全てのデジタル化を良しとするだけではいけない。ここで上がっているデジタル化については座席予約システムや自動貸出機についてとなるので、オペレーションの話になる。

(委員) 子供たちも紙の方が良いというのは分かっていると思う。紙とデジタルの両方を選んで使えることが大事。何も無いときにパソコンで本を読めるというのが良い。

(委員) デジタルと紙の両方を使うことが良い。紙のみだと不便な所がある。デジタル教科書があるからこそすぐに飛べたり、デジタル教科書の中で形や大きさの同じ合同な図形を回転させて確認ができる等、視覚的に認知しやすくなる側面がある。それを活用しながらも、紙の教科書の方がより早く違うページにとべたり、繋がりを見る時に分かりやすいので、紙とデジタルの両方使うのが効果的だと思う。紙とデジタルのどちらかを選ぶというのでは全くないと思う。紙だけではなくバーチャルに図書館が運営されるというのは、子供の資質能力を高める上で非常に重要なので、進めていただければと思う。

(会長) 紙やデジタルについて、全てをどちらかにするというのは問題で、教員がどこに焦点をあててどのようにやっていくかをきちんとやらないといけない。1990年代に、教育工学の分野でクラークとコズマという研究者らが、当時新しく導入されはじめたマルチメディアツールの有効性の議論をしている。その結果はツールそのものを新しくしたから有効なのではなく、それに対応した授業の準備をしたかどうかの方が重要であり、従来のやり方でも同様の準備をすることで大きな効果をあ

げるというようなことだったかと思う。今回の話もそれに近いものがあり、新しいデジタル形式の資料に置き換えればよいというような話ではなく、どのような資料を、何のために、どのような形で提供するのかを色々考えることが重要である。利用者の行動と資料との関わりなどについて分析を深めて図書館として何が最適かを考えて欲しい。それはともかく、本件については座席予約システムや自動貸出機を導入するなど、検討し導入をし始めたことで効果があったということは評価したい。施設整備についても順調に進んでいるということでA評価とする。

(会長) 4つめの誰もが使いやすいサービスについて、アウトリーチの活動やバリアフリーの活動が含まれる。ちらしや出版物もUDユニバーサルデザインフォントにして欲しい。全体として一定のバリアフリー化が促進されている。神戸市は様々な国の方が生活をしているので、それらを含めた図書館の読書推進を考えていかないといけない。評価する話とともに、これらについてより深めていって欲しいという希望が沢山上がっている状況だ。

(委員) これだけのイベントを司書がするというのは、本・言葉・子供の調査や研究に直結する部分に割くエネルギーが削られるように思える。イベントをすると集客力はあるが、打合せ等も必要なので物理的に忙しくなるので、これが図書館にとって本当に良いことなのかという迷いがある。現在のイベントの量が非常に多く、超人的な仕事ぶりだと感じる。戦争の展示などは、どの館でも資料を回すことができるのではないかと思う。場所の問題もあるので、中央図書館でやった規模では出来ないが、地区館の規模に合わせて割愛したりパネルを小さくしたりするなどして行えないかと思う。準備にかけた物を1館のみで使うのはもったいない。利用者は地域の図書館を中心に利用するため、良いイベントがあっても遠くには行かないので、巡回型のイベントや時期をずらして全館回るとか、2館合同のイベントなど省力化も考え、日常業務を大切にしつつ、日常業務が図書館にとってどれだけ大事かを評価する視点を持ち続けたい。

(会長) イベントにおける書店との連携やコーディネーターの協力は面白いと思う。出来ることには限界があるので、続けていくことと変えていけることが重要で、新しいことも追加していかないといけない。「国会図書館でも新しいことを行っているが、従来の仕事を減らしつつ、減らしたことを分からないようにしている。そのためには単純化していくか協力体制を充実させることが重要だと思う。」誰もが使いやすいサービスを提供することは重要なことで、そのために沢山の労力が掛かるという指摘があった。バリアフリーの取り組みは、出発段階では手をかけるしかなく、そして重要である。

(委員) 普段図書館になかなか行けないが、図書館が色んな努力をしていると感じる。本が好きな人は自然に図書館に行くが、普段あまり図書館に行かない人が図書館に行ってみようと思うきっかけとなるので、イベントをしてもらえるのは良

いことだと思う。

(会長) 色々効果を上げていると評価されている。全館巡回型の取り組みやパッケージにして簡単に動く仕組みが必要でてくるかもしれない。止めてしまうのも一つの選択肢であるし、その代わりに何をするかを考えていただき、ぜひ継続して行く仕組みが欲しいと思う。「頑張ってやってください。」となる。

(委員) 郵送での貸し出しや電子書籍で読めることもバリアフリーの1つである。図書館に行きたくても行けないなどの当事者が、利用可能な制度の存在を知らないのではないかと感じた。図書館も色々なことに取り組んでいるので、制度の周知をして欲しい。

(会長) 日常の活動の中で当事者の声が届かないことはその通りだと思う。当事者の声を聴くという機会を意識して作らないとなかなか届かないので、留意して欲しい。誰もが使いやすいサービスはやってもらわないと困るので、サービスを提供しているということは評価し、A評価としたい。

(会長) 5つめの項目として子供サービスとして生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てる試みとして、様々なことが行われている。

(委員) 図書館との連携では学校図書館司書が大変お世話になっており、教えていただく講座があったり、学校にない本を借りて帰る等、頻繁にしており、助けてもらっている。子供たちの読書推進については、図書館だけではなく学校側も学校図書館を通して読書推進をしていかないといけないと日々考えている。

(委員) 実際効果を上げているものも沢山あるし、活動自身が図書館に対してのシンパシーを高めていくと思う。

(委員) 読書感想文は子供にとって難題で、生成 AI に相談して作成したりもする人もいるので、今後夏休みの宿題からなくなるだろうという投稿を読んだ。子供にとって、読書感想文はどこから何に手を付けていいのか分からないので、親子で共通の本を読み、面白かった箇所はどこで、どう思ったかを話し合い、会話をまとめて読書感想文にした。読書感想文の書き方講座を実施してもらえたら、生成 AI に頼らず、人と人とのコミュニケーションで可能になるのでやって欲しい。

(事務局) こちらには掲載していないが、昨年度と今年度は公民館と連携し、読書感想文の書き方講座を行った。非常に好評で今後も続けていきたい。

(委員) 図書館司書も忙しいので、ボランティアを募るなど第3者の力を借りながら等、これ以上仕事を増やさない様にコーディネートを手くしてもらったらよいのではないと思う。

(委員) なかなかボランティアは集まらないのにボランティアとの連携行事が書いてあるのですごいなと思う。どうやってボランティアを集めているか。

(事務局) 定例のおはなし会は開催曜日と対象年齢を掲載し、ポスターで公募をしている。昔から神戸で活動をしているボランティアの方が沢山おられる。

- (委員) 長い歴史の中で様々な活動が受け継がれているというのが大きい。
- (委員) 土地柄なのかと思う。大月ルリ子先生がおられ、私もここでボランティアをしているが、読み聞かせびと養成講座は毎年開かれており、受講された人が活動の場を求めて、その窓口に図書館になっており、そういうラインができているから成り立っていることだと思う。神戸の子供たちは恵まれていると思う。
- (会長) それは本当に財産だと思うので、ぜひそういう方々の火を灯し続けることができるような活動にしてもらえるといいなと思う。分館等でボランティアの方を集めるとなかなか集まらなくて結構大変だ。
- (事務局) 読み聞かせびと養成講座には、基礎コースと応用コースがあり、沢山の方が受講している。女性の受講者が多かったが、最近は男性の方もおられ、どんどん広がるのではないかなと思う。
- (委員) 面白い。神戸は昔から養成講座みたいなのが多い。本の修復などもあった。
- (委員) それが地区館で標準化されていないという声があった。私は中央図書館で活動しており、本当に厚いバックアップを得て、楽しんでしているが、ある館ではボランティアはプログラムを事前に提出し、リハーサルして本番に向かうが、勝手にボランティアがやるのではなく共同でしたいので、司書にも入って欲しいと交渉して実現はしたところだ。活動時に司書が寸前に書架から抜いて読んだことがあり、ショックを受けたと聞いた。前にリハーサルしていた本を抜いたかもしれないし、事実関係ははっきりしないが、お話し会の持ち方の標準化がないから起こるので、全てをマニュアル化するのがいいとは思わないが、ある程度の標準化をして欲しいと思う。
- (委員) いろんな意見等もぜひ集めて、続けていただければと思う。新しい工夫を取り入れた企画も面白いですし、お祭り等やベビーマッサージなどの新たな取り組みも、続けていくのは大変かもしれないが、どのようにしていくのか、続けられる工夫とともに頑張っていただければと思う。
- (委員) 大人の読み聞かせはなんとかならないか。圧倒的に大人で本を読んでいる人が多い。子供は読み聞かせが好きなのは分かっている。大人でも読み聞かせから始めないとどうにもならない人たちがいると思う。
- (事務局) 大人の読み聞かせもやっている。
- (委員) 大人だけを対象としたというのは少ないが、大人にも声をかけることで子供への影響を狙うというのは各図書館でやっている。
- (委員) 子供サービスというところで、いろいろな子供の状態が想定され、不登校にならざるを得なかったり、外国人の子供も増えているので、図書館には機能の多機能化が求められている状況にある。社会教育施設として、居場所となったり、学校教育だけでは担保できない様々な施設とか能力とか状態の向上に向けて、どう図書館が取り組んでいくのかということが求められているので、居場所というの意味合いが色々あるが、そのための状態をどういうふうにするかと

して提供するのか、その中で子供が少しでも希望を持てるような、イベントやイベント内でのやりとりや交流のようなものをどう組み立てていけるのか、少し視点を広げた関連を盛り込んでもいいかなと思った。評価に関係するものではない。

(委員) 本当によくやってくださっていると思う。長年見ていると大きな変化とともにコロナの絶望的な時代から今まで立ち直って、これはとてもありがたいと思っている。

(会長) 全体として色々あるが、A 評価としたい。

各項目について協議した結果、

1. 資料の充実 B
2. 読書推進 A
3. 施設整備とデジタル化の推進 A
4. 誰もが使いやすいサービス A
5. 子供サービス A

ということで委員の結論としたい。この協議の結果については第9期第2回の神戸市立図書館協議会の評価としてコメントをつけた上で公表させていただければと思う。コメントその他の表現だが、図書館の方で原案を作成し、会長・副会長が確認し、その上で公表とさせていただくので、一任いただければと思う。令和6年度神戸市立図書館事業評価についてはこれで終了とし、事務局に進行をお返しする。

【閉会】

(事務局) 本日は長時間わたる協議ありがとうございました。本日、ご協議いただいた内容につきまして事務局でまとめを作成させていただき、各委員の皆様へご確認、ご承認をいただく。貴重な意見を沢山いただき、その意見をこの先の図書館運営に生かしていけるよう取り組んでいく。